

社会福祉法人 慈正会
第 27 期(平成 30 年度) 事業報告

□社会福祉法人慈正会

□第 1 種社会福祉事業

・特別養護老人ホーム

□第 2 種社会福祉事業

・老人短期入所

・(介護予防)老人短期入所

・老人デイサービス

・(介護予防)老人デイサービス

□公益を目的とする事業

・居宅介護支援

・地域包括支援センター

・社会福祉の増進に資する人材の育成・確保

第 27 期(平成 30 年度) 社会福祉法人慈正会 事業報告

基本理念『愛と奉仕、迅速、親切』

社会福祉事業第 27 期(平成 30 年度)は、医療・介護の同時報酬改定が実施され、収益面で大きな影響を受けました。また、社会福祉法の改正から 1 年が経過し、法人の経営ガバナンス、事業運営の透明性の向上等法改正に則った運営がなされているのかを確認された年度でもありました。

当法人では、社会福祉法人をめぐる環境の変化に迅速かつ適切に対応し、社会福祉法人に求められている福祉サービスの質の向上および効果的なサービスの提供に努めました。また、経営の効率化や基盤強化を図り、法人経営・財務諸表の公表等法令を遵守した運営を行なってまいりました。

収入面では、施設利用者の重度化、福祉人材の不足から、「特別養護老人ホーム」の入所者数は、年間累計 35,048 名で前年に比べ▲149 名、「短期入所」の利用者は、年間累計 2,928 名で前年に比べ+239 名でした。

「デイサービス」の利用者は、新規利用者の獲得が遅れ、中重度者の施設入所や他サービスの利用等による減少を補うことができず、年間利用者数は前年に比べ▲969 名と大幅に減少いたしました。

また、平成 31 年 1 月・2 月に感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)発症により、短期入所の受け入れ制限、デイサービスの営業休止等も収入減に大きく影響し、非常に厳しい年度でありました。

支出面では、委託業者の見直し、種々の単価見直しを実施いたしましたが、恒常的な福祉人材不足解消の実効性に欠けたため、人材紹介手数料の増加、非常勤職員の人員配置整備の遅れ等で人件費が増大、施設の老朽化に伴う修繕費、光熱費の増大で、支出面でも厳しい年度でありました。

1. 重点課題への取組み報告

(1) 尊厳を守る組織

利用者第一主義のもと、ご利用者が常に自分の権利が守られていると実感できるサービスの提供に努めました。

川崎市健幸福寿プロジェクトに参加。昨年度に引き続き 2 年連続で金賞を受賞されました。

(2) 身近に感じる福祉

福祉サービスの質の向上および事業経営の透明性を確保し、ご利用者、ご家族、地域に福祉を身近に感じてもらえるように町内会への働きかけ、各種サロンへの積極的な協力を実施してまいりました。

(3) 経営組織のガバナンス強化と法令遵守の徹底

法改正にともなう必要情報の開示と行政報告等、迅速に対応いたしました。

「個人情報保護法」「身体拘束の禁止」等法令遵守に関する研修会の実施、法令改正に伴う規程・マニュアルの見直し、整備等、適正な事務手続を励行いたしました。

(4) 収支構造の見直しによる財務基盤の安定

資金使途を明確にし、各事業所の指導者層に月毎の収支状況を明示し、収支に対する意識改革に努めました。介護報酬加算の取得、委託費・保守料の見直し等、諸経費の軽減に努めました。

(5) 人材の戦力化(人材確保と育成)

・就職説明会・ハローワークでの個別企業説明会に参加。専門学校等の訪問により、人材確保に努めました。

- ・人材紹介会社、人材派遣会社、採用広告会社等を活用し、人材確保に努めました。
- ・職員の資格取得を推進するため、研修参加費の助成を実施しました。(介護支援専門員、実務者研修)
- ・夕刻に実施している介護職員の勉強会、フロアミーティングを活用し、業務見直し提案・施設の現況を説明する等、職員の施設運営への参画意識の向上に努めました。
- ・社外講師によるモラルアップのための研修会を実施いたしました。

2. 会議・委員会開催状況

① 理事会開催状況と内容

回数	開催年月日	出席状況	主 な 議 題
第1回	平成30年 5月23日 (水)	6/6	(議案) ・平成29年度 事業報告(案)について ・平成29年度 収支決算報告(案)について ・定時評議員会の招集と議案(案)について (報告事項) ・理事長の職務の遂行状況について
第2回	平成31年 3月26日 (火)	6/6	(議案) ・平成30年度 収支補正予算(案)について ・2019年度 事業計画(案)について ・2019年度 収支予算(案)について ・経理規程の改訂(案)について (報告事項) ・理事長の職務の遂行状況について

② 評議員会開催状況と内容

回数	開催年月日	出席状況	主 な 議 題
第1回	平成30年 6月14日 (木)	7/7	(議案) ・平成29年度 事業報告(案)について ・平成29年度 収支決算報告(案)について ・役員報酬規定の改訂(案)について (報告事項) ・平成30年度 事業計画について ・平成30年度 収支予算について

③ 法人内の定例会議・委員会

会議名等	開催回数	内 容
企画会議 主任会議	12	・事業計画の進捗状況確認 ・上期・年間の人事評定について ・各事業所の取組状況報告 ・介護職処遇改善加算について ・上期収入とその分析 ・防火管理について ・感染症について ・入居者検診について ・職員の採用について ・その他、諸情報伝達・交換
月間行事会議	12	・行事・業務スケジュールの確認・決定
施設美化・整備委員会	12	・施設の整備・美化に関する検討、推進 ・設備の故障・点検、修理状況の確認

安全衛生委員会	12	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の実施と結果に対する再診等の指導 ・メンタルヘルス対策 ・禁煙の推進 ・労災、通勤途上災害の把握及び未然防止対策 ・腰痛予防対策 ・インフルエンザ等感染予防対策 ・時間外労働の抑制 ・整理、整頓、清掃、清潔、の推進
個人情報保護委員会	12	・各事業所の取組状況報告、事例研究
賞罰委員会	(開催なし)	

④施設開催行事

開催年月日	開催内容	
4月7日	家族会総会・お花見会	特養入所者のご家族を招待して実施
8月18日	納涼祭	特養家族会と協賛して実施 他に王禅寺町内会、ボランティアの方々も参加
10月20日	運動会	職員と特養入所者、デイサービス利用者合同で実施
11月26日	焼き芋会	家族会から寄贈された焼き芋機を活用して、デイサービス利用者、特養入所者にできたての焼き芋を提供
12月22日	クリスマス会	職員による虹の里オリジナルダンスとボランティアによる演奏等を実施
12月26日	餅つき会	王禅寺町内会の役員が中心になって餅つき会を実施。 利用者も順番に杵をもって餅をつく

3. 防火・防災訓練の実施と対策の推進

(1)職員一人ひとりの防災意識の高揚に努めました。

デイサービスでは、利用者も参加して消火・避難訓練を実施。

特養では、王禅寺町内会と締結された「防災相互援助協定」(平成7年12月締結)に基づき夜間合同消防訓練を実施しました。

(2)常時、火災・消火機器類の整備、点検を行うとともに、職員による週1回の巡視を行っております。

○防災訓練

実施日時		細部実施事項	参加人員		
月日	時間		職員	職員以外	計
7/21 (土)	15:51～ 16:15	通所介護利用者が、昼間の火災発生に遭遇した場合を想定して職員による建物外避難誘導訓練を実施。	8	16	24
10/20 (土)	18:00 ～ 19:00	<ul style="list-style-type: none"> ・王禅寺町内会、消防団、婦人消防隊、合同で夜間消防訓練を実施。(町内会、消防団の参加28名) ・午後10時、火災発生を想定。宿直者1名、夜勤者5名で、火災発見から通報、初期消火、避難誘導訓練を実施。 ・職員が入所者になり、救出活動を行った。 ・設備等に問題はなかった。 ・訓練時、大雨のため室外への避難誘導は危険と判断、室内避難誘導と車椅子の取り扱い方法と移動時の注意事項を実施・体験をした。 	31	28	59

4. 施設・設備の修繕・更新等

平成 29 年度に計画した修繕工事、設備の更新は、業者との調整不足や他に緊急性を要する修繕が発生したため、未実施が多く平成 30 年度に繰越しとなりました。

(実施事項)

- ・中間浴リフトの更新
- ・地域包括車両購入
- ・OA 機器導入
- ・ダクト清掃工事(リネン室、厨房)
- ・消防設備不具合箇所の整備工事
- ・無停電電源装置設置工事
- ・厨房機器の整備・入替え(食器洗浄機等)
- ・献立ソフトの更新
- ・汚雑排水管清掃
- ・受水槽配管工事
- ・製氷機の更新
- ・配管補修工事 等

平成 30 年度 特別養護老人ホーム 事業報告

利用者第一主義「良質なサービスの提供」に徹するとともに、利用者が常に自分の権利が守られていることが実感できるよう、『個人の尊厳の保持』、『公平で万全な気配り』を基本に取り組みました。

利用者の介護度が重度化しており、体調変化への迅速な対応を行ないました。

感染については、平成 31 年 1 月にインフルエンザ A 型が発症し、沈静化したあと続いて「感染性胃腸炎（ノロ）」が発症し、2 月後半まで入所者の居室対応が続きました。「インフルエンザ」の予防接種は、職員・入所者全員が実施し、10 月から職員には手洗い・うがい・マスクの着用を徹底していました。また、11 月よりグリーンウォーター（セラ水）の散布、出勤時の検温、面会者の検温・入室時のマスク着用等、感染予防に努めておりましたが、実効性に欠け、多くの感染者を発生させてしまいました。

1. 基本方針への取り組み報告

(1)利用者第一主義

『敬愛、安全、安心、清潔、快適』を基本に、総合的な生活援助を実施しました。

- (2)身体拘束ゼロ宣言の精神に則り、安全に配慮しご利用者の精神的・肉体的束縛廃止に取り組みました。
- (3)孤立感、疎外感のない生活を送っていただけるよう、日頃の声掛け、多彩な行事を実施いたしました。
- (4)行政、保健医療・福祉サービス提供者との親密な情報交換等により連携強化に取り組みました。

2. 重点課題に対する取り組み報告

(1)事故発生未然防止対策の推進

- ①「予測・観察・確認」をスローガンに掲げ、職員意識の高揚を図りました。
- ②介護事故の再発防止に向け、「事故防止検討委員会」を毎月開催。数値等で状況を確認、対策を検討。特に、転倒防止については、入所者個人別の転倒リスクを評価し個別対応を推進するとともに、職員が共通に状況把握することでチームケアとして取り組みました。
- ③誤薬防止のため、複数の職員による確認を徹底しました。
- ④ヒヤリハット・事故発生の都度、書面にてその状況を報告。今後の取り組み、再発防止策を検討し実践しました。また、その効果が不十分な場合は対策を再検討し改善を図りました。

(2)感染症予防対策の推進

- ①自己管理【手洗い、うがい、マスク着用（10 月～3 月）】を徹底し、感染源を持ち込まないように努めました。また、面会のご家族にも受付で検温を実施。マスクの着用にも協力を頂きました。
- ②感染防止対策委員会を中心に医務室と連携し、予防対策や発症時の対応について、職員への教育を徹底しました。
- ③口腔ケアを徹底するとともに、食事時の姿勢や介助方法の技術向上、誤嚥性肺炎の予防に努めました。

(3)介護職員による痰の吸引や経管栄養の安全管理を徹底しました。

(4)看取りケア体制の整備については、具体的な進展はありませんでした。

(5)人材育成・働きやすい職場環境づくり

- ①フロアミーティング、チーム打合せ等で職員間のコミュニケーション、スキルアップを図りました。
- ②業務改革提案の実施により、職員が問題意識をもち業務見直し等に対し「自調自考」の意識を高めるよう働きかけに努めました。（夜勤開始時間の変更等を実施）

3. 食事等について

- ①介護職・看護職・生活相談員等他職種が連携し栄養ケア計画に基づき、入所者の体調に合わせた食事の提供に努めました。
- ②誤嚥予防の為、個々人の食事形態の見直しを随時行いました。
- ③食物繊維、乳酸菌等、整腸作用を促進する食事を工夫し、便秘の予防に努めました。
- ④厨房内の衛生管理、食中毒の防止を徹底しました。
- ⑤栄養摂取量や充足率等データによる栄養管理を推進しました。
- ⑥地域や季節感を反映した、変化に富んだ行事食を提供しました。
- ⑦入所者との「給食会議」(隔月)を実施し、入所者の意向を反映した献立に努めました。
- ⑧災害時に備え、非常食の備蓄・差し替え管理を徹底しました。
- ⑨地産地消を基本に新鮮な食材、安全な食材の使用・提供を行いました。

○ 年間食事実施表

月	行事食	郷土料理	薬膳料理	季節の献立
4月	お花見 (天ぷら・刺身・筍と菜の花の煮浸)	群馬県 (にしんの煮物)	美肌効果 (とろろ、野菜汁、麦飯)	昭和の日 (筍ご飯・桜海老のかき揚げ)
5月	八十八夜 (抹茶ようかん)	神奈川県 (サンマーメン)	便秘解消に効く (柳川風・若竹煮)	端午の節句 (ハンバーグ・ピラフ)
6月	入梅 (鯛の梅煮)	大分県・佐賀県 (とり天・ガメ煮)	貧血予防 (ひじきの炒め煮)	夏至 (穴子の天ぷら)
7月	七夕会 (ちらし寿司・夏野菜のかき揚げ)	近畿 (いとこ汁、かやくご飯)	夏バテ予防 (夏野菜サラダ)	
8月	納涼祭 (焼きそば・つくね・枝豆・スイカ)	石川県 (茄子そうめん)	血液をサラサラ (玉ねぎの味噌汁)	土用の日 (うなぎちらし)
9月	敬老会 (鯛の塩焼き・豆腐の味噌田楽)	宮崎県 (めた芋・すり流し汁)	胃腸を整える (りんごヨーグルト)	敬老の日(栗ご飯) 秋分の日(さんまの鯉煮)
10月	運動会 (いなり寿司・厚焼き卵・豚汁)	高知県 (鯉の土佐造り)	脂質異常症予防 (鯖のおろし煮)	寒露(おでん) 体育の日 (ミートローフ・キノコピラフ)
11月	焼き芋会 (さつま芋・じゃが芋)	山形県 (芋煮・五目ぶかし)	風邪を予防 (鮭の野菜蒸、 大根生姜スープ)	小雪(おでん・麦ご飯)
12月	クリスマス会 (にぎり寿司・煮込みハンバーグ)	徳島県 (奈良和え・ 大平おこわ)	便秘解消に効く (野菜汁・茸ご飯)	冬至(南瓜の含め煮) 大晦日(年越しそば)
1月	新年会(おせち料理)	北海道 (鮭ちゃんちゃ焼)	風邪を予防 (ねぎスープ)	元旦(おせち料理) 七草(七草粥)
2月	鍋宴会 (寄席鍋・いなり寿司)	栃木県 (しもつかれ・赤飯)	疲れ目に効く (南瓜とアーモンドサラダ)	節分 (恵方巻き・節分まんじゅう)
3月	ひな祭り(菜の花の和え物、ちらし寿司) 鍋宴会(おでん・いなり寿司)	愛知県 (ひきざり・うざく)	便秘解消に効く (ひじき飯・芋スープ)	春分の日 (かき揚げ・桜寿司)

- ・毎月第1月曜は誕生会を実施
- ・毎月1日は変わりご飯を提供
- ・毎月ケーキの日、焼きたてパンの日を実施

4. 健康管理について

(1)サービス担当者会議での情報収集とニーズにあった個別目標を設定し看護を行いました。

体温、血圧等の計測、症状の観察により、日常の健康管理、疾病の早期発見、悪化防止に努めました。

(2)診療、予防接種等

①入所者全員の定期的回診(毎週2回の内科、月2回の整形外科、皮膚科、精神科)を実施しました。

②インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンの接種を行いました。

③結核検診の実施と行政への報告を行いました。

(3)急変時等の対応・付添

急変時、異常時の適切な対処に努め、必要に応じて医療機関への受診を行いました。また、眼科等への定期的外来受診を必要に応じ行いました。

入院・退院・受診には病院・診療所からの情報を相談員と共有し、家族への連絡を徹底しました。

(4)服薬指導・薬剤管理

薬理効果・副作用等の観察、確認を行うとともに、薬剤の適正な管理を徹底しました。

(5)感染症の防止

感染性胃腸炎(ノロウイルス)、インフルエンザ、風邪、肺炎、疥癬、MRSA等の感染予防に努めました。

(6)嚥下機能低下の入所者には、食事形態を考慮し、摂取状況を注意深く観察し早期対応に努めました。

5. 会議・委員会開催状況

福祉サービスの充実・質の向上、適正な業務運営、その他施設が抱えている諸問題の解決に向け、各種委員会活動を積極的に開催し、改善に努めました。

会議名等	開催回数	内 容
入所判定会議	18	・33名の入所判定を実施(前年比+8名) 内入所者25名(前年比+3名)
サービス担当者会議	25	・入所者 延べ121名のケアプランの立案・検討
生活会議	6	・各種行事の予定と振り返り、食事時間変更について ・生活上での困っていることについて
給食会議	5	入所者が参加し、食事に関する意見を聴取 ・食事の味の評価、献立希望 ・各行事食の感想について
給食委員会	12	・各行事食について ・嗜好調査について ・給食会議での入所者の意見について ・衛生面について(食中毒等) ・食事形態の変更について
排泄委員会	12	・個々の入所者への対応策を検討 ・オムツの使用状況、交換の時間・回数の見直しについて ・汚物処理室の使用、清拭車清掃について
リハビリ委員会 (褥瘡対策チーム)	12	・理学療法士による研修会の実施 ・グループリハビリで行うゲームについて ・入所者個別リハビリの内容、体交等について ・褥瘡対策現況表の見直し把握・対応について
入浴委員会	12	・変り湯の計画・準備について ・浴室設備・入浴機器での事故防止策および衛生管理について ・入浴内容の変更および各入所者の対応について

身体拘束委員会	12	・身体拘束具の使用状況確認と予防具使用者の見直し ・低床ベッド・コルマット・衝撃吸収マット・チルト式車椅子使用等の確認
日課業務職員研修マニュアル対策委員会	12	・日課業務の見直し ・職員の配置検討 ・新人職員の指導方法について ・排泄(尿路感染)について ・高齢者の罹りやすい疾患、脱水について ・プライバシーについて ・マニュアルの更新 ・職員への研修課題設定 ・認知症について ・虐待について ・緊急時の対応について
口腔ケア・清潔委員会	12	・口腔ケアの個別状況確認・改善 ・居室の清潔・環境整備
事故防止対策委員会	12	・各月の事故報告・ヒヤリハットの内容分析・把握と防止策について ・転倒ハイリスク者のリストアップと対応
痰吸引・経管栄養感染・食中毒対策委員会	12	・痰吸引・経管栄養対象者の把握および現状確認 ・食中毒の予防について ・感染症(インフルエンザ、感染性胃腸炎等)の予防対策について
介護職員研修会	12	・各委員会からの報告・対応策の検討と実践の徹底 ・月別にテーマを決めた勉強会 (感染対策、インフルエンザ予防対策、食事介助方法等)
フロアミーティング(夜間研修会)	6	・仕事への取り組み姿勢を振り返る(チームにおける自分の役割) ・施設の方針の理解・現況確認 ・勉強会の実施(体験学習、虐待について、介助について等)

6. 余暇活動他について

(1) 買い物会等、外出行事を行いました。また、お花見会・納涼祭等多くの年間行事を施設内で行いました。

(2) ADLが低下している方には、個別、グループでのリハビリ、レクリエーション活動を行いました。

○クラブ活動状況(参加人数は一回あたりの平均的参加人数)

クラブ・行事名	活動日	指導者	活動内容
手工芸	月2回	入所者家族 担当職員 ボランティア	1F食堂にて季節にあわせた工芸品・壁面・壁かけ等を作成。(王禅寺中央中学校に作品を出展)
書道	月2回	山本先生	1F食堂にて書道を実施。作品を施設内に掲示。
音楽	月2回	麻生童謡を歌う会	童謡を中心に楽器を用いて合唱。
ホーム喫茶	月1回	ボランティア	2F食堂で喫茶店の雰囲気を楽しむ。
グループ リハビリ	週1回	担当職員	1Fフロアにて、グループゲームを中心に活動。
個別リハビリ	週1回	村山PT	個別プログラムに沿って実施。
映画鑑賞会	最終 日曜日	相談員 日直職員	入所者の希望を参考にし、1Fフロアで大型テレビにて作品を鑑賞。
虹待夢の日	月1回	担当職員	お菓子を楽しむ日。入所者希望のお菓子を提供。
レクリエーション	随時	担当職員	輪投げや歌等を中心に活動。カラオケ使用。

○年間行事等実施状況

月	日	行事名	活動内容
4月	7日	誕生会・お花見会	1階フロアにて
	23日	買い物会	新百合ヶ丘で買い物と食事
5月	7日	誕生会	1階フロアにて
	19日	虹ヶ丘小学校運動会	虹ヶ丘小学校に訪問し運動会を見学
	28日	買い物会	新百合ヶ丘で買い物と食事
6月	4日	誕生会	1階フロアにて
	18日	買い物会	新百合ヶ丘で買い物とお食事
7月	2日	誕生会・七夕	1階フロアにて
	13日	盆供養	修廣寺住職にて
	25日	メイクアップセラピー	会議室にてボランティアによる化粧の実践
8月	6日	誕生会	1階フロアにて
	18日	納涼祭	施設内で盆踊り
9月	3日	誕生会	1階フロアにて
	15日	敬老会	敬老祝賀会 祝い膳・コンサート
10月	1日	誕生会	1階フロアにて
	20日	秋の大運動会	1階フロアにて
	31日	ハロウィン	各フロアにて
11月	5日	誕生会	1階フロアにて
	26日	焼き芋会	1階食堂にて
12月	3日	誕生会	1階フロアにて
	22日	クリスマス会	各部署の出し物・会食
	26日	餅つき会	王禅寺町内会の方達の協力を得て
	29日	年忘れ会	夕食後1階食堂にて
1月	2日	獅子舞	王禅寺囃子保存会による
	7日	新年会	新年の挨拶・お節料理
	16日	誕生会(中止)	1階フロアにて
2月	2日	節分(豆まき)	各フロアにて
	4日	誕生会	1階フロアにて
	25日	鍋宴会	1階食堂にて
3月	4日	ひな祭り会・誕生会	1階フロアにて
	25日	鍋宴会	1階食堂にて

7. 実習受入について

介護福祉士実習指定施設として、実習生受入を行った。教員養成大学等からの依頼もあった。

	実習受入状況	実習期間	日数	人数	延べ人数
1	田園調布学園大学	H31. 2/13~2/20	6	1	6
2	聖ヶ丘教育福祉専門学校	8/23~9/21	21	1	21
3	王禅寺中央中学校	11/27	1	3	3
4	南生田中学校	8/29	1	3	3
5	教員養成研修	10/15~10/19	5	1	5
		11/5~11/9	5	1	5
		11/26~11/30	5	1	5

6	高津看護専門学校	6/12~6/13	2	3	6
		6/21~6/22	2	3	6
		7/24~7/25	2	2	4
		8/2~8/3	2	3	6
		9/11~9/12	2	3	6
		9/20/9/21	2	3	6
		10/2~10/3	2	3	6
		10/11~10/12	2	4	8
		10/23~10/24	2	3	6
		11/1~11/2	2	4	8
	合 計		64	42	110

平成 30 年度 老人短期入所 事業報告

短期入所利用者の介護度も重度化してきているため、利用予約の急なキャンセルや長期利用者の施設入所等により、安定した利用者数を確保することは、難しい状況になってきています。地域包括支援センターと協力して近隣のケアマネジャーを施設に招き、施設見学、試食会、意見交換会を実施。利用者確保に努めました。

2か月前から受付けている利用予約の空き情報を迅速に当施設内の居宅介護支援事業者・地域包括支援センターに提供し協力依頼を徹底するとともに、他事業所のケアマネジャーへの積極的な情報提供と連携を図ってきました。また、休日の受入れを積極的に行なうことにより、新規利用者の獲得に努めました。

利用者に対しては、

- (1) ケアマネジャーより提出される居宅サービス計画書に基づき、短期入所中のケアプランを再検討し、利用者の自立支援が実現できるようにサービスの提供を行いました。また、新規利用者が再利用を希望するような介護サービスの提供に努めました。
- (2) 自宅とは異なる環境での生活による精神的負担や身体症状の急変(発熱、血圧低下、便秘、不安による混乱等)、転倒事故の可能性等を考慮し、十分な注意と家族との連絡、施設職員間の協力・連携を確認しながらサービス提供を行いました。
- (3) 川崎市の要請による緊急での短期入所の受入れを行いました。

平成 30 年度 デイサービス 事業報告

利用者の希望が多いリハビリテーション、入浴介助を中心に、利用者の身体機能の維持と向上を目標にサービスを展開いたしました。ボランティアの協力により、バラエティに富んだ催し物メニューを企画し実施しました。

【項目別事業報告】

(1)送迎サービス

家族や利用者の希望に合わせ、送迎時間や個別送迎、折り返し送迎など多彩な状況に対応しました。階段昇降やベッドへの移乗、戸締り等、独居世帯や認知症の利用者へきめ細かい配慮を行いました。

(2)食事サービス

- ①楽しく、美味しく昼食を取って頂くように嗜好調査を実施。利用者にあつた食事形態にも注意しました。温度や味付け等、管理栄養士に利用者の声を伝え、満足していただけるよう情報を伝え対応しました。
- ②食事を楽しむという観点から、行事食を計画し、食器や盛付けなどにも工夫をいたしました。また、利用者と一緒にお菓子作りを行ないました。
- ③食事量の把握を行い、利用者の体調管理、健康状態の変化に対応しました。

(3)入浴サービス

入浴を希望する利用者が増加しています。特に在宅での入浴がむずかしい利用者が、機械浴を希望するケースが増加しているおり、利用者の希望を尊重し対応しました。

(4)機能訓練サービス(個別機能訓練)

集団での体操を中心に、歩行の安定や身体の柔軟を維持する目的で、上・下肢の運動、筋力向上、平行バランス感覚の練習等、楽しく体を動かしていただけるよう工夫しました。

また、専門的なアプローチを行うため、理学療法士の活動日数を増やし、関節の可動域訓練や個々の利用者適切な訓練メニューを用意し、在宅生活の継続を念頭においたサービス提供に努めました。

(5)行事について

四季を感じていただくことを大切に考え運営しています。バイキング形式の食事会や体を動かす運動会等、参加していただける行事を企画・実施しました。また、ボランティアの演奏会、踊り、朗読等、充実した行事を企画、実施いたしました。

(6)健康チェックについて

- ①検温・血圧測定により早期に利用者の健康状態を把握し、体調の変化や感染症の予防に努めました。高齢者特有の脳梗塞やリュウマチ、皮膚疾患等に的確に対処し、兆候を見逃さず、家族への報告・連絡、医療機関への連絡等、速やかに対応しました。
- ②毎月の体重測定や看護師の日々の視診で、利用者の健康管理に努めました。

(7)介護計画の作成

利用開始前に調査訪問を行い、通所介護についての説明と利用者の身体状況等を把握し、家族や本人の希望を取り入れ、居宅サービス計画書に沿った「通所介護サービス計画書」を作成。居宅介護支援事業者との連絡調整を図り、利用者・家族が速やかにサービス提供が受けられるよう努めました。

(8)サービス提供記録の交付

その日のサービス提供終了後、利用者個々の利用状況を確認し、書面に記録。家族等の求めに応じサービス提供記録の交付を行い、日々の状況については通所介護連絡票で確認を行いました。

平成 30 年度 居宅介護支援 事業報告

事業計画の基本方針に基づき、要介護者である利用者の立場にたち、その利用者自身の心身の状況や置かれている環境に応じて多様なサービスが提供されるよう心掛け、援助しました。

【項目別事業報告】

1. 居宅サービス計画作成

- (1)利用者・家族が、自宅において自立した日常生活を営むために必要なサービスが適切に利用できるような計画を作成し、利用者(介護者)に説明、同意を得るようにしました。
- (2)毎月、月末までに翌月の居宅サービス計画を作成し、利用者(介護者)の確認をいただき、サービス提供が確保されるよう事業者への連絡調整を実施しました。
- (3)少なくとも月1回、利用者の状態や家族の変化に応じて訪問を行い、居宅サービス計画の見直し、実施状況の把握(モニタリング)を行いサービス事業者への連絡調整を行いました。
- (4)サービス担当者会議を開催して各サービス担当者に対する照会等を行い、担当者から居宅サービス計画の変更の必要性について意見を求めるよう努めました。

2. 要介護認定等申請に係わる援助

- (1)介護保険、要支援・要介護認定の有効期間を確認し、申請の手続きが行えるように利用者、家族へ必要な援助を行うとともにその申請代行も実施しました。
- (2)介護保険関連の償還払いの申請や、区分変更申請、市単独事業等説明や申請代行を行う事でスムーズに制度を利用できるよう心掛けました。

3. 地域包括支援センターとの連携

- (1)地域包括支援センターと連携をとり要介護の利用者が要支援認定となった際にも介護予防サービスを継続的に利用できるよう連絡調整を行いました。
- (2)地域包括支援センターからケアプラン作成の依頼を受けた際は、地域包括支援センターと指定介護サービス事業所と連携、協力し、継続的なケアマネジメントを実施しました。
- (3)利用者、家族の状況と希望にあわせて随時訪問を行い居宅サービス計画書の見直しや実施状況の把握(モニタリング)を行い事業者への連絡調整を行いました。
- (4)対応困難(虐待等)なケースに対して、相談や同行訪問など(行政への報告も含む)の連絡をとることで利用者に合わせたサービスの調整や検討を行いました。
- (5)地域活動に対する情報の提供を受け、地域住民に対する働きかけを行ないました。

4. 記録の整備

- (1)個々の利用者ごとにファイルを準備し、契約書、介護保険証(写し)、フェースシート、課題分析表(アセスメントの結果の記録)、週間サービス計画書、居宅サービス計画書、サービス利用票、サービス担当者会議の開催及びサービス担当者会議の照会の記録、モニタリングの結果の記録、ケース記録等を保管し、記録の整備に努めました。
- (2)特定事業所集中減算等、加算、減算の根拠となる書類を作成し保管しました。

5. 介護保険・要介護認定訪問調査

保険者より依頼を受け、利用者宅および施設・病院へ訪問し認定調査を実施しました。

6. 各会議・研修への参加

- ① H29 年 川崎市介護支援専門員連絡会総会

- ② ジャパンケア連携推進会議
- ③ H29年 集団指導者講習会
- ④ ネットワークミーティング
- ⑤ 麻生区ケアマネ連絡会
- ⑥ 研修「生活保護制度と低所得者への福祉サービス」
- ⑦ 川崎市居宅介護支援事業者研修会
- ⑧ 川崎市指定介護保険事業者集団指導講習会
- ⑨ 介護予防従事者研修 等

7. 特定事業所としての役割

- ①地域包括支援センターや病院あるいは区役所等から相談された困難ケースの相談については可能な限り適切な対応に努めました。
- ②夜間や休日の緊急連絡や相談にも対応しました。
- ③介護支援専門員実務研修における実習生の受入れ行いました。

平成30年度 地域包括支援センター 事業報告

地域包括支援センター運営マニュアルに基づき地域包括ケアの中核的機能を果たすべき3職種連携のもと以下の4大事業を中心に事業を推進いたしました。

特に地域包括ケア推進に向けた取り組みの中で、多様なニーズに応えるべく地域との連携を強化し、誰もが安心して住みなれた地域で生活が継続できるための支援体制を構築し、地域福祉の拠点としての役割を遂行しました。また、法人内の他部署との連携を図り、居宅、デイ、ショートの利用促進に貢献しました。

【項目別事業報告】

1. 事業内容

(1)総合相談・支援事業

- ①担当地域に居住する65歳以上の高齢者やその家族からの多種多様な相談への対応
- ②夜間・休日の電話相談対応(緊急受診対応含む)
- ③実態把握調査
- ④地域包括支援センターの広報・啓発(包括だよりの発行、リーフレットの配布)
- ⑤介護保険制度内容の説明と介護保険申請代行
- ⑥ケアマネジャーの紹介とサービス利用の調整
- ⑦認知症についての相談
- ⑧在宅介護の方法についての助言
- ⑨福祉用具の紹介、使い方
- ⑩地域の情報収集と情報提供
- ⑪その他必要と判断された支援(制度では対応できないことや、やむを得ない支援)

(2)権利擁護事業

- ①「高齢者虐待の防止及び擁護者への支援」等、法律に基づく虐待ケースへの対応および川崎市高齢者虐待対応マニュアルの関係者への周知
- ②成年後見制度の普及啓発、あんしんセンター、司法書士、行政書士等法律の専門家との連携。
- ③消費者行政センターと連携し悪質商法等の消費者被害の防止と対応

(3)包括的・継続的ケアマネジメント事業

- ①行政、ケアマネジャー、医療機関、民間サービス等の関係機関をはじめ、民生委員、町内会、自治会等との支援ネットワークの構築による継続的な支援を実施
- ②ケアマネジャー支援として、支援困難ケースの対応及びカンファレンス、サービス担当者会議の開催支援、同行訪問、情報提供等の実施
- ③地域ケア会議(ご近所ネットワーク会議個別事例検討)、個別ケース会議及び地域包括ケア圏域会議(新百合ヶ丘自治会、下麻生地区情報交換会)の実施
- ④ケアマネジャー支援及び多職種連携の場として、ケアマネの交流と相談を目的とした「虹の里カフェ」を毎月第3金曜日に開催
- ⑤多職種連携の一環として、ケアマネカフェ有志の会で麻生区多職種交流会(1/26)を開催。麻生区内外のケアマネジャー等、90余名の参加があった

(4)介護予防ケアマネジメント事業

- ①担当地域の要支援1・2の介護予防プランの作成(予防給付と総合事業)とサービス担当者会議の開催・参加
- ②更新申請、新規申請、区分変更の申請代行
- ③複合プログラム対象者の(パワーリハビリテーション等)について事前事後面接(評価)
- ④いこい元気広場フォロー教室開催
- ⑤転倒予防体操コロバネーゼの会開催(王禅寺・虹ヶ丘・虹ヶ丘1丁目)

(5)その他

- ①担当地域の65歳以上の高齢者の実態把握調査及び実態把握名簿の作成
- ②川崎市福祉サービス(生活支援型配食サービス、緊急通報システム等)の申請と調査
- ③麻生区徘徊高齢者 SOSネットワークの推進と普及啓発・登録
- ④住宅改修理由書作成
- ⑤介護用具の貸し出し、紹介、使い方指導
- ⑥あさお福祉まつり参加
- ⑦市民のための在宅医療フォーラム

2. 各種会議・研修・イベント等への出席

- ・川崎市地域包括支援センター連絡会議・会議内研修(毎月第4月曜)
- ・麻生区地域包括支援センター連絡会・事例検討会(毎月第2水曜)
- ・麻生区地域ケア連絡会議(小会議・大会議 不定期開催)
- ・麻生区地域包括支援センター運営協議会
- ・麻生区介護支援専門員連絡会幹事会(毎月1回)定例会(年数回)
- ・介護予防・日常生活支援総合事業説明会
- ・麻生区災害ガイドライン説明会
- ・総合事業モニタリングシート説明会
- ・市民のための在宅医療フォーラム「在宅療養の仕組みを知ろう」(3/6)
- ・在宅チーム医療リーダー研修
- ・高齢者虐待研修・分析ワーキング(3/16・3/24)
- ・安心見守りネット情報交換会
- ・サリユールあさお小規模多機能運営推進会議(奇数月第4水曜)
- ・ヴィラージュ虹ヶ丘複合型運営推進会議(奇数月第4土曜)
- ・みのりの家グループホーム運営推進会議(偶数月第4土曜)
- ・配食事業者意見交換会(7/13)
- ・川崎市認知症キャラバンメイト連絡協議会総会

3. 地域活動支援

- ・虹ヶ丘コロバネーゼの会(第1・3火曜開催) ・王禅寺コロバネーゼの会(第1月曜開催)
- ・虹ヶ丘1丁目コロバネーゼの会(第2・3火曜開催)
- ・虹ヶ丘ティータイム(第4土曜日) ・虹ヶ丘認知症カフェ(第4木曜日)
- ・ふれあい喫茶金曜日における「高齢者何でも相談会」の開催(第4金曜)
- ・王禅寺団地コロバナビクスの会認知症サポーター要請講座
- ・認知症サポーター養成講座フォロー講座 ・小田急電鉄認知症サポーター養成口座
- ・もちつき大会(1/15)支援者のつどい(3/5)参加 ・虹ヶ丘老人会フォーラムスバルの会
- ・団地カフェ虹への協力 ・介護者のつどい(隔月開催)
- ・虹ヶ丘老人会フォーラムスバルの会、友愛健康の集いへの参加・協力
- ・どっこいシニア(虹ヶ丘3丁目老人会)地域包括支援センターと介護保険について 等

4. 職員研修

- ・主任介護支援専門員ファシリテーション研修
- ・地域ケア会議における個別ケース検討と地域課題の把握及び対応
- ・ケアマネジメントツール地域資源のつなげ方
- ・支え合いマップ研修 ・スーパービジョン研修
- ・認知症キャラバンメイト ・「認知症」フレンドリーな街づくり
- ・全国地域包括・在宅介護支援センター研修会
- ・高齢者虐待対応と意思決定支援研修 ・麻生区ボランティア交流会
- ・横浜総合病院 介護事業所との情報交換会 等

5. 個人情報の取り扱い及び書類・データの管理

- ・個人情報の漏えいを防ぐため、個人データにパスワードの設定を徹底
- ・ケースファイル・個人情報記載書類は鍵のかかるキャビネット保管を徹底

6. 職員間の連携について

- ・困難ケースについては、3職種が創意・工夫し適切な対応方法等を検討・実践した
- ・毎朝9時より、当日の予定確認等の打合せを定例化した
- ・毎月第3金曜日 9時より包括会部会議を実施。会議・研修報告等で情報の共有を図った

平成30年度「社会福祉の増進に資する人材育成・確保」事業報告

福祉人材の確保を目的として平成20年度より開始した当制度は、平成29年度より、新規募集を停止しているため、平成30年4月の該当者はなかった。なお、該当者からの奨学金返済は完済された。

採用数(うち奨学金受給者)

21年度実績	9名(7名採用)	22年度実績	3名(2名採用)
23年度実績	3名(3名採用)	24年度実績	5名(2名採用)
25年度実績	6名(4名採用)	26年度実績	4名(2名採用)
27年度実績	2名(2名採用)	28年度実績	3名(1名採用)

資料

1. 各事業所の実績

	1日平均利用者数				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
特養利用者数	99.3名	100.0名	99.8名	96.4名	96.0名
ショート利用者数	9.6名	5.5名	9.0名	7.4名	8.0名
デイ利用者数	30.4名	31.8名	29.4名	29.3名	26.1名
	月平均ケアプラン作成数				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
居宅介護支援センター	80件	92件	89件	101件	105件

2. 陣容状況

○採用・退職の推移

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
新規採用	常勤(定期)	6	4	2	3	1	0
	常勤(中途)	10	9	3	7	8	6
	パート(派遣)	9	11	16	10	13	10
	(入社計)	25	24	21	20	22	16
退職	常勤	13	4	10	9	13	8
	パート(派遣)	11	13	13	8	7	6
	退職(計)	24	17	23	17	20	14

○介護職員数の推移(月平均常勤換算数)

	特養介護職員	特養看護職員	デイ介護職員	デイ看護職員
平成26年度	45.4	5.3	10.2	2.9
平成27年度	44.9	4.3	11.4	1.8
平成28年度	44.6	6.0	11.1	2.6
平成29年度	41.3	5.6	12.5	2.8
平成30年度	40.5	7.0	11.1	3.3

○施設外研修参加総数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
参加総数	99名	112名	131名	93名	124名	124名

【特養の現状】(平成 30 年 3 月 1 日と平成 31 年 3 月 1 日比較)

○入所者平均年齢 86.7歳 ⇒ 86.3歳

○入所者の平均介護度 4.05 ⇒ 4.02

		要支援	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5
人数	H31.3 (99名)	0名	1	5	23	38	32
	H30.3 (105名)	0名	1	5	25	34	40
占率	H31.3	0%	1.0	5.1	23.2	38.4	32.3
	H30.3	0%	1.0	4.8	23.8	32.4	38.1

※中重度介護者占率 94.3%⇒ 93.9%

○特養待機者状況 426名(H. 29) ⇒ 378名(H. 30) ⇒ 165名(H. 31)

※介護度 3 以上 250名 ⇒ 239名 ⇒ 132名

		不明・申請中	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5
人数	H31.3	12名	7	14	57	42	33
	H30.3	17名	46	76	104	66	69
	H29.3	30名	57	89	100	73	77
占率	H31.3	7.3%	4.2	8.5	35.5	25.5	20.0
	H30.3	4.5%	12.2	20.1	27.5	17.5	18.3
	H29.3	7.0%	13.4	20.9	23.5	17.1	18.1

○入院状況

	延べ入院日数	平均入院日数	年間受診回数
平成 26 年度	2588 日	30.8 日	217回
平成 27 年度	2464 日	27.7 日	217回
平成 28 年度	1722 日	24.3 日	272回
平成 29 年度	1889 日	27.7 日	282回
平成 30 年度	2182 日	28.7 日	263回